

9 2026
September
No.168
<http://ypta.jp/>
会員数889名
施設数195 R8.8.10現在



一般社団法人
山梨県理学療法士会
Yamanashi Physical Therapy Association

SUPPorters



令和8年度 新理事・幹事一同

令和8年度 代表理事挨拶

山梨県理学療法士会
会長 磯野 賢
甲州ケアホーム

山梨県理学療法士会の役員選挙・総会ならびに第1回理事会にて代表理事（会長）となりました磯野賢です。

今後2年間の役割を担うこととなり、新しい組織として士会運営に臨んでいくにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

Contents

令和8年度 代表理事挨拶	1～2	コラム「私の科学の学び方」まとめ	7～8
令和8年度 一般社団法人山梨県理学療法士会		活動報告	9
定期総会報告	3	リレーエッセイ Pert 50	9～10
協会賞表彰 厚生労働大臣表彰	4	編集後記	10
お知らせ	5～6		



磯野 賢 会長

今まさに、リハビリテーションに関連して、いくつかの大きな動きが出てきております。

まず厚生労働省内にリハビリテーションに関する政策を一体的に進める部署として「リハビリテーション統括調整室」が設置されました。

““「リハビリテーション統括調整室」設置”

““「攻めの予防医療」”

““士会では「横のつながり」”

また、来年の介護報酬改定に関連して、包括支援センターへのリハビリ専門職の配置が示されました。

そして、経済財政運営と改革の基本方針2026（骨太の方針2026）では、全世代型社会保障の構築（「攻めの予防医療」）の中で、「予防・医療・介護を通じた切れ目のないリハビリテーション」として位置づけられました。このように、大きな動きが相次いで示されたことは、これまであまり記憶にないところです。

このような変化は、偶然に、たまたま出てくるようなものではありません。皆さんが日々、理学療法士として患者・利用者さんに真摯に向き合い、団体として訴え続けてきたこと、そして我々の代表が政策として訴えてきたことが、少しずつ形になってきたのだと思います。

次は、我々が活動を通してしっかりと形にし、さらに社会的価値を高めていくフェーズに入ったということだと思います。

さて、県士会では、このような変化を踏まえながら、引き続き、横のつながりを持って参加・協力できる組織、そして持続可能な組織にしていくことが役割と考えます。また、昨年度から活動を始めた産業保健などの新しい分野へのチャレンジを推進していきます。

価値ある会を会員の皆さんとともに作っていく。今年度も、誰かが担っている士会ではなく、みんなで作る・参加する士会を目指し、「自分が所属する大切な仲間がいる場所」にしていければと思います。

ご協力、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



2026年2月13日 令和7年度産業保険研修会
公益社団法人 新潟県理学療法士会
会長 中山 裕子先生

令和8年度 一般社団法人山梨県理学療法士会

定期総会



山下浩樹 事務管理局長

事務管理局 局長 山下 浩樹
甲州リハビリテーション病院

令和8年6月16日（火）に行われた、
「令和8年度 一般社団法人山梨県理学療法士会 定期総会」について
ご報告いたします。

1、定足数の報告、出席者・委任状について

令和8年5月15日現在、正会員数862名に対して

- ・出席者数45名
- ・委任状数528名

よって、一般社団法人山梨県理学療法士会定款（以下、定款とします）第21条に則り総会は成立いたしました。

2、議事

提案されたすべての議事について、承認がされました。

- ・監査報告の総括にも記載があった、会員数の減少や休会者の増加については、現状調査・分析・対策等について検討していく。
- ・数年ぶりに「交流会」が開催され、21施設125名（新人29名、一般96名）の参加があり、士会員の交流の機会となった。今後も横のつながりを意識し、企画や開催場所を工夫しながら検討を行っていく。
- ・第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会が、令和7年11月15日（土）・16日（日）アピオ甲府で開催され、874名の参加があった。学会開催に伴い、多くの士会員の協力をいただき、開催することができた。

総会の議事録や組織図は当士会HPに掲載されていますので、是非一度ご覧になってください。

皆様のご協力のおかげで無事総会を開催することができ、厳粛な雰囲気の中、議事を進めることができました。ありがとうございました。

「令和8年度 一般社団法人山梨県理学療法士会 定期総会」の風景がみられます。

山梨県理学療法士会 広報局「x」より

<https://x.com/tyKvjmg4IJ42644/status/2067171483034759558>

協会賞表彰 厚生労働大臣表彰

おめでとう

ございました



厚生労働大臣表彰
高村 浩司福会長

協会賞表彰
磯野 賢会長

谷村 英四郎先生が、この度幹事をご退任されました。

長きにわたり山梨県理学療法士会を牽引していただき、誠にありがとうございました。



原稿を募集しています!

会報部では **会員の声** を少しでも多く取り入れたいと考えております。テーマは **自由** です。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など
2. 各種お知らせ事項など
3. 体験記など
4. その他

あなたの体験やアイデアをお待ちしています!

応募は 会報部の **メールアドレス** まで



“学術研修部”

2026年度学術研修部では、会員の皆様の臨床実践力向上を目的に、さまざまなテーマで研修会を企画しております。このたび、現時点で開催が決定している研修会をご案内いたします。

9月27日（日）10:00～16:00は、長坂和明先生（新潟医療福祉大学）を講師にお迎えし、「疼痛に関連する神経可塑性のエビデンスと臨床応用（仮）」をテーマに帝京福祉専門学校にて開催いたします。現在申込受付中です。（申込URL：<https://forms.gle/jcVAXieXbjUzQDcy6>）

11月15日（日）10:00～16:00は、齊藤正佳先生（Tao clinic／くまざわ整形外科 TAO東京 リハビリテーション部）を講師に、「エコーガイド下による股関節の運動療法の実践（仮）」をテーマとして、健康科学大学を会場に開催予定です。

12月20日（日）10:00～16:00は、小山優美子先生（帝京科学大学）を講師に、「動作計測の基礎、定量評価の臨床実践（仮）」をテーマとして、健康科学大学にて開催予定です。

なお、このほかにも研修会を企画しております。詳細は県士会ホームページ等で順次ご案内いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【問い合わせ先】学術局学術研修部 部長 小林 裕司
貢川整形外科病院 E-mail：yptgkensyubu@gmail.com



“第 29 回山梨県理学療法士会学術集会のお知らせ”

令和9年1月24日、アピオ甲府タワー館にて「第29回山梨県理学療法士会学術集会」が開催されます！ここ2年間は、山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会、関東甲信越ブロック理学療法士学会との合同開催でしたが、実に3年ぶりとなる待望の単独開催です。

大会長に有泉静佳先生を迎え、特別講演には新潟医療福祉大学の太西秀明先生をお招きして、日々の臨床の疑問を解き明かす「運動と感覚の生理学」を深く掘り下げます。

さらに教育講演では、国立障害者リハビリテーションセンター研究所の白銀暁先生より、現場で大いに役立つ「福祉機器の臨床評価」について最新の知見を交えてご講演いただきます。

日々の臨床に追われて疲れた脳に、極上の生理学と最新知見の栄養補給をしませんか？皆様のご参加を心よりお待ちしております！

【問い合わせ先】学術局担当理事 鮎川 将之
山梨リハビリテーション病院 E-mail：pt_ayukawa@yahoo.co.jp

第29回 山梨県理学療法士会学術集会

[特別講演]

大西 秀明 先生
(新潟医療福祉大学 教授)

[大会長] 有泉 静佳
(山梨県立あけぼの医療福祉センター)

主催 一般社団法人 山梨県理学療法士会

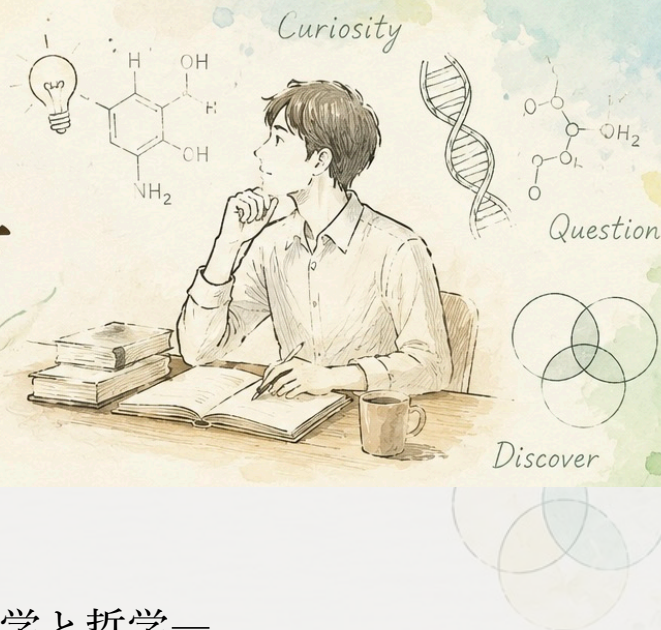
2027年1月24日 日

アピオ甲府タワー館

※参加申し込みについては 山梨県理学療法士会HPをご参照下さい。

私の科学の学び方

まとめ



—理学療法の中の科学と哲学—

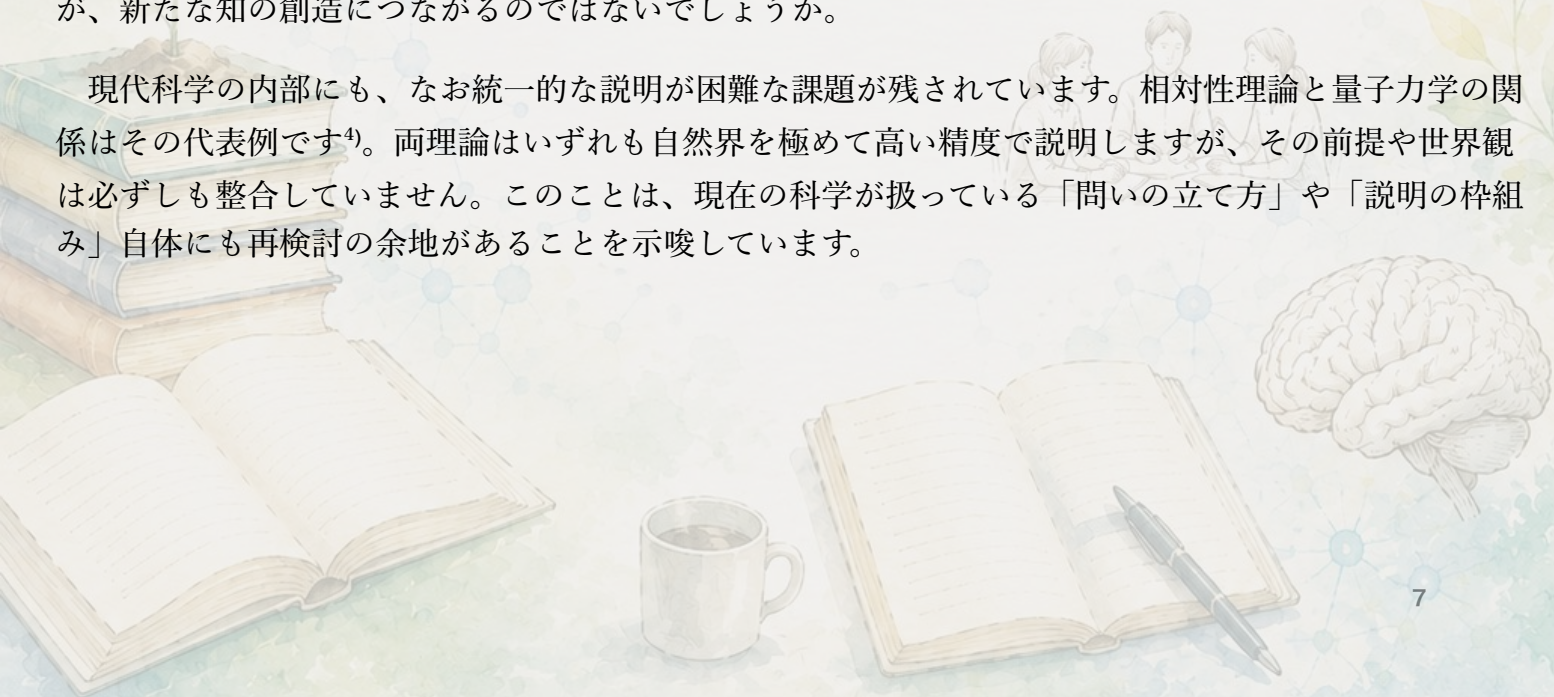
春日居総合リハビリテーション病院 宇月 正明

Supporters No.165・166・167では、執筆者それぞれが「私の科学の学び方」を語り、科学への向き合い方が極めて多様であることが示されました。三つの視点に触れることで、私は改めて「なぜ私は科学を学ぶのか」「科学とは何を扱う営みなのか」という問いへ立ち返ることになりました。科学とは単なる知識の集積ではなく、人が世界を理解しようとする知的営みそのものです¹⁾。

科学史を振り返ると、17世紀から19世紀にかけて見られた「朝食会」の文化は象徴的です。自然哲学から近代科学への転換は王立協会の成立を背景として進み、ロバート・ボイルらは観察と実験に基づく方法論を確立しました²⁾。さらに19世紀には、ウィリアム・ウェーヴェルが科学的方法論を整理し、「scientist（科学者）」という言葉を提唱しました³⁾。この歴史は、科学が哲学的思索の延長線上から生まれたことを物語っています。

一方、現代では科学議論で煮詰まった時、「哲学的になってはいけない」と言われる場面も少なくありません。しかし、科学は一定の前提のもとで現象を精密に説明する営みであり、哲学はその前提そのものを問い直す営みです¹⁾。科学が世界を深く理解し、哲学がその土台を点検する—この往復運動こそが、新たな知の創造につながるのではないのでしょうか。

現代科学の内部にも、なお統一的な説明が困難な課題が残されています。相対性理論と量子力学の関係はその代表例です⁴⁾。両理論はいずれも自然界を極めて高い精度で説明しますが、その前提や世界観は必ずしも整合していません。このことは、現在の科学が扱っている「問いの立て方」や「説明の枠組み」自体にも再検討の余地があることを示唆しています。



さらに、デイヴィッド・チャーマーズが提唱した「意識のハード・プロブレム」は、脳活動を詳細に記述できたとしても、主観的経験（クオリア）がどのように生じるのかを説明できないという問題を提起しました⁵⁾。ここで問われているのはデータ不足ではなく、現在の科学的枠組みそのものの限界です。

私は、このような課題に対して、光吉俊二氏が提唱する「光吉演算子」の考え方を、既存の概念枠組みを組み替える一つの思考モデルとして捉えています⁷⁾。問いを異なる概念空間へ写像することによって、問題の見え方そのものを変えるという発想は、科学的思考に新たな視点を与える可能性があります。

また、この考え方は、感情モデルを実装したヒューマノイドロボットPepperや、人工自我を備えたFormula Carなどの研究にも展開されています⁸⁾。もちろん、これらの研究が意識の本質を解明したと結論づけることはできません。しかし、人間の意識や感情を新たな視点からモデル化しようとする試みとして、大変興味深い研究であると考えています。

理学療法の臨床もまた、客観と主観の境界に立つ営みです。運動学習や身体感覚を理解するためには、神経科学的知見だけでなく、患者自身が経験する身体感覚や意味づけにも目を向ける必要があります⁶⁾。評価の前提を問い直し、必要に応じて評価枠組みそのものを再構築する姿勢は、科学であると同時に哲学的営みでもあります。私も含めて、それをひっくるめて「科学」と定義していた人は多いと思います。私見ではありますが、臨床実践においては、科学と哲学を明確に切り分けることは難しくなっているように思います。

最後に私の中で、理学療法は科学と哲学の往復によって深化すると考えています。朝食会に象徴されるように、科学と哲学は本来同じテーブルから生まれました。科学とは答えを集める営みではなく、問いを磨き続ける営みであり、哲学はその問いそのものを問い直す営みです。その往復を止めないことこそが、私にとって「科学を学ぶ」ということなのです。

参考文献

- 1) 野家啓一. 『科学哲学への招待』. ちくま学芸文庫, 2015.
- 2) 村上陽一郎. 『近代科学の成立』. 講談社学術文庫, 1999.3)
- 3) ローラ・J・スナイダー (杉山滋郎訳). 『科学者をつくった男たち—ウェーヴェルと〈サイエンティスト〉の誕生』. 河出書房新社, 2013.
- 4) 佐藤勝彦. 『相対論と量子論』. 岩波書店, 2001.
- 5) デイヴィッド・チャーマーズ (林一訳). 『意識する心』. 白揚社, 2001.
- 6) Shumway-Cook A, Woollacott MH (田中繁監訳). 『モーターコントロール—運動制御の理論から臨床実践へ』. 医歯薬出版, 2017.
- 7) 光吉俊二. 東京大学大学院工学系研究科 道徳感情数理工学 (MEOME) 研究資料・講演資料.
- 8) 光吉俊二. ヒューマノイドロボットPepperおよび人工自我・Formula Carに関する研究資料. 東京大学大学院工学系研究科.

活動報告

“スポーツ理学療法部”



山梨県理学療法士会スポーツ理学療法部は、スポーツ理学療法に関する知識、技術の研鑽、また県内スポーツ現場への貢献を目的に活動を行っています。令和7年度の活動は、月2回の部内勉強会、チーム（高校を中心に8チーム）への帯同、県内で開催された競技大会（マスターズ国際テニス大会、関東高校レスリング大会）への協力、県士会員等に向けたスポーツ理学療法勉強会（第80回「脳震盪について学ぶ」、第81回「物理療法について」）を行いました。また、来年度は、山梨で開催される南関東インターハイ ウエイトリフティング競技への協力を予定しております。

現在、スポーツ理学療法部は部員17名で活動を行っており、部内勉強会では基礎的なことも学び直しています。理学療法士を志すきっかけがスポーツだった方など、スポーツ分野に関心がある方、スポーツ理学療法部では一緒に活動する部員を募集しています。興味、関心がある方はお問い合わせ下さい。

【問い合わせ先】 業務推進局スポーツ理学療法部 古屋 伴仁
 韮崎市立病院 E-mail : furuya.tomohito@nirasakihospital.jp

リレーエッセイ

Part50-1

山梨リハビリテーション病院 市川 裕貴先生からバトンを受け取りました。春日居総合リハビリテーション病院の清水 真琴です。

運動不足解消に始めたランニングも今年で2年。最初は3kmで限界だった私が、今では月間300kmを走破するほどランニングの沼にハマっています。

初レースで年配ランナーやコスプレランナーに完敗した悔しさと、全力で駆け抜けたあの達成感・開放感がすべての始まりでした。走る時間は、地域の再発見だけでなく、自分の身体の些細な変化や特徴に気づく貴重な機会となり、心のゆとりも生まれています。

今年はクロカンやトレランなど様々なレースに挑戦中ですが、本番は秋の「富士山マラソン」。専門職として自らの身体の可能性を探求しつつ、サブ3（フルマラソンで3時間を切ること）を目指します。参加される方は共に頑張りましょう！次回は、湯村温泉病院 山下 諒先生にバトンをお渡しします。よろしくお願いします。



Part50-2

こんにちは、私は「医療法人 笹本会 おおさと通所介護」の
甲田 智洋と申します。

私は現在、通所介護の理学療法士兼管理者として日々の業務に取り組んでいます。理学療法士として一人一人の身体機能や生活習慣を把握し、立ち上がりや歩行、日常生活動作のお維持・向上を支援しています。必要に応じて運動指導や動作練習を行い、介護職員とも連携しながら、無理なく継続できる支援を心がけています。いきいきとした利用者様の笑顔を見ることにこの仕事のやりがいを感じています。

また、管理者としては、職員が安心して働ける環境づくりや様々な職種の職員との連携を図り、チーム全体としての質の向上にも力を注いでいます。管理者としてはまだまだ勉強中の身ですが、地域に信頼される事業所を目指していきたいと思っています。

次回は春日居総合リハビリテーション病院の中島 隆之先生にバトンを渡しします。よろしくお願いします。



「令和8年熊本地震」にてお亡くなりになられ方に、心よりご冥福をお祈りを、また被災された方へ心よりお見舞い申し上げます。そして全ての医療・福祉に従事されている皆様、そしてご多忙の中、快くご執筆いただいた諸先生方に心より感謝申し上げます。

さて先日、「水素はいつ『粒子』になり、いつ『波』になるのか」という東京大学生産技術研究所のプレスリリースを読んだ。興味深かったのは、水素自身ではなく、周囲の結晶構造という「環境」が、その振る舞いを決めるという発見だ。この話題から思い浮かんだのが、ギブソンのアフォーダンス。人の行動もまた、身体能力だけでなく、人と環境との関係の中で引き出される。理学療法でも、手すりの位置や声掛けを少し工夫するだけで、患者さんの動きが大きく変わる場面を私たちは日々経験している。

もちろん、量子物理学と臨床を直接結び付けることはできない。それでも、「環境が振る舞いを左右する」という視点には、どこか共通するものを感じる。……結局、何が言いたいのかというと…。あれ？…なんだっけ？

また会報誌発刊の際には、引き続きご協力をお願いいたします。

宇月 正明

発 行	一般社団法人 山梨県理学療法士会
代 表	磯野 賢
編 集	宇月 正明 古澤 淳一 進藤 圭一郎 清水 真琴
会 報 部	〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436
	医療法人 景雲会 春日居総合リハビリテーション病院
	Tel : 0553-26-4126 Fax : 0553-26-4366
	E-mail : kaihoushiyamanashi@yamanashi.co.jp